



lab.2 Sight

2017年8月5日(土)～
2017年11月5日(日)

開かれた実験室としての〈lab〉 知覚拡張デバイス「Sight」で耳から世界を見る

展覧会名	lab.2 Sight
会 期	2017年8月5日(土)～11月5日(日) 開場時間 / 10時～18時(金・土曜日は20時まで) 休 場 日 / 毎週月曜日(ただし8月14日、9月18日、10月9日、10月30日は開場)、9月19日、10月10日
会 場	金沢21世紀美術館 デザインギャラリー
料 金	入場無料
主 催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

展覧会について

現在金沢21世紀美術館 デザインギャラリーにて開催中の「lab.2 Sight」。

イルカやコウモリが音を手掛かりに空間を移動し餌をとるように、デバイスSightが目にする映像を音に変換します。その開発状況をプレゼンするとともに継続的なりサーチの場として開放していきます。



Photo: KIOKU Keizo

Sight について

イルカやコウモリは、音の情報を使って餌までの距離や環境の空間情報を得ていると言われています。反響音で部屋の広さがわかる人もいます。私たちはこういった知見から、次のようなアイデアを得ました。視覚情報を音声情報として聞くことができる世界を構築すれば、音を聞くだけでものを見るという体験を実現できるのではないか。このアイデアを実現しようとするものがSightです。

Sightは、私たちの“ものを見る”という経験を全く新しいものに変えるデバイスです。日々の生活で我々が目にする映像を、音に変換して聞かせてくれます。私たちはSightを身に着けることで、普段目を使って認知している視覚の世界を“聴く”ことができるようになるのです。「そんなことできるの？」そう思う人もいるかもしれません。私たちはできると考えています。イルカやコウモリは音によって餌を探しています。この能力はエコーケーション(反響定位)と呼ばれており、人間にもこの能力が使える可能性があることが知られています。私たちは、この隠された人間の「脳の機能」を引き出してみたいと考えています。

(Sight)



Photo: KIOKU Keizo

関連プログラム

lab.リレートーク

2017年4月よりデザインギャラリーで始まった新しい展覧会シリーズ「lab」。会場を単なる作品展示の場として用いるのではなく、調査・研究・実験の場としてそのプロセスをプレゼンテーションすることを目的として始められた。第1回目の「lab.1 OTON GLASS」(2017/4/28-7/23)の中心メンバー、島影 圭佑氏と当展覧会「lab.2 Sight」から和家尚希氏をお招きし、各プロジェクトの成果報告や今後の展開について語っていただきます。トークのあとは「知覚の拡張」をテーマにディスカッションを予定。

[日時] 9月17日(日) 14:00~16:00(開場13:45)

[場所] 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

[定員] 先着80名(事前予約不要)

[料金] 無料

[講師] 島影圭佑(OTON GLASS)、和家尚希、鈴木良平(Sight)

3



島影 圭佑

1991年生まれ。株式会社 OTON GLASS 代表取締役。2013年、首都大学東京在学時、父の失読症をきっかけに、視覚的な文字情報を音声に変換することで「読む」行為をサポートする眼鏡型のデバイス「OTON GLASS」の研究開発を始める。2014年に情報科学芸術大学院大学[IAMAS]に進学し、同年に株式会社 OTON GLASSを設立、代表取締役に就任。現在も、ディスレクシア(難読症、読字障がい)や弱視者の補助をはじめ、外国の街を歩く際など、文字を読むことが困難なさまざまなシーンでの「読む」能力を拡張するデバイスとして、研究開発と事業化を進めている。主な受賞歴に「James Dyson Award 2016 国内3位」「GUGEN 2016 優秀賞」「YouFab Global Creative Awards 2016 グランプリ」。

4



和家尚希

1992年愛知生まれ。テクノロジーによる知覚の理解と拡張に関心を持ち、これまでに『欠損した肢体の存在感「幻肢」をバーチャル空間で表示することで幻肢痛を緩和するシステム』『難聴・耳鳴が引き起こす神経活動の変化』『抑うつ状態を音声から推定する技術』の研究に携わる。現在東京大学大学院博士課程に在学中。

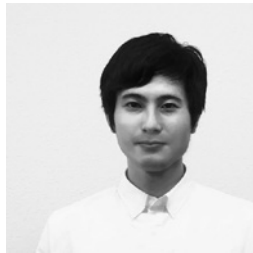
5



鈴木良平

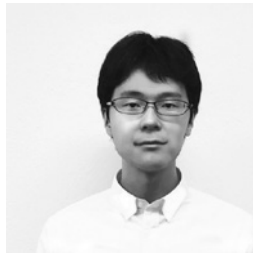
1991年東京生まれ。布型入出力デバイス《LightCloth》や超音波を用いた映像制作システム《AnnoTone》など、視聴覚表現を拡張するソフトウェアやメディアアートの制作・研究に携わる。東京大学大学院にてコンピュータ科学を専攻、現在同大学物理学科に在学中。

メンバープロフィール



和家尚希

※ P3参照



鈴木良平

※ P3参照

6



伏見遼平

1991年岡山生まれ。在学中に音声知覚に興味を持ち、「自分の声を聴き返すときの違和感」に着目し違和感の原因や違和感を減らすフィルタに関する研究を行う。また合成音声を題材としたインスタレーション作品《ある声について》を発表。現在はGoogleのソフトウェアエンジニアとして、地図アプリの開発に携わる。

7



宗像悠里

1992年東京生まれ。多摩美術大学にてインタラクションデザインを学び、現在はプランナーとして広告代理店に勤務。これまでのデジタルとデザインの知見を活かし、主にユーザーエクスペリエンスを重視したインタラクティブ体験の設計に携わる。

Sight 活動歴

【プレゼンテーション】

- ・ IEEE TENSYP, “Sight: Sonification of affordances for the stand alone blind navigation,” July 2017
- ・ Tepia Advanced Technology Gallery, November – December 2016
- ・ GEIDAI ARTS SPECIAL 2015 (Tokyo University of the Arts), November 2015

【Award】

- ・ 東京大学情報理工学系研究科主催ハッカソンJPHACKSスポンサー賞2賞受賞(リクルートホールディングス・Accenture)
- ・ DIGITAL CONTENT EXPO 2015

【その他】

- ・ 委託事業 IPA情報処理推進機構 未踏IT人材発掘・育成事業:
2015年度プロジェクト採択「空間知覚拡張のための“聞こえる化”デバイスの開発」

広報用画像

画像1～12を広報用にご提供いたします。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※トリミングをご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正用原稿を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何とぞよろしくお願い申し上げます。



Photo: KIOKU Keizo



Photo: KIOKU Keizo



Photo: KIOKU Keizo



Photo: KIOKU Keizo

